【論点】

**論文における文章の書き方や、語句の使い方について確認し、自分たちの論文に応用できるものについて共有する**

【論点の意義・経緯】

15章までが論文の構成や資料について述べられていたのに対して、16章と17章では細かい文章において注意すべきことや語句や主語の使い方などについて書かれていた。この文章では英語で論文を書くことが前提とされているが、日本語の論文においても活用できる点があると考え、共有したいと思ったためこの論点を設定した。

◇以下のポイントの中で重要と思われるもの、その理由について話し合う

⑴読者がどの程度問題として掲げているテーマに精通しているかによって、序論のテンポを決める（どのくらいの段階で、問題・課題を明らかにするか）

⑵書き出しに関して

①あなたの課題・問題を明らかにする印象的な事実から始める

②印象的な引用から始める

③明らかになっている逸話から始める

（辞書のような定義から始めない・もったいぶりながらはじめない・言い回しを繰り返すことをしない）

⑶主体は、短く、具体的なもので、生身の人間である方が、読者は好む。抽象的な単語を主語に用いて、文中・段落中に多用しない。

⑷古い情報を文頭に、主語として置き、新しい情報はなるべく後に書く。

⑸自分がどのようにして問題を発見しどのように解決するのかという一連のプロセスを描写したいときは能動態を使い、誰もが実行できるプロセスを描写したいときは受動態を使う。

⑹新しく専門用語を用いる場合、最後の数単語でその用語を表すように文章を作る

⑺長い語句や節が必要となる複雑な概念は文末にもってくるようにする。最初にもってきてはならない 。

⑻段落を始めるとき最初か二番目の文の最後に残りの段落を表しているカギとなる語を入れる